

発刊によせて

浦添市長 比嘉昇

本市は「国際性豊かな文化都市」を目指して都市づくりを進めております。

その政策的バックボーンとなっているのは、本市の有している歴史的背景や地理的条件などでありますが、中でも先人が培ってきた文化遺産を市民と共に学び、今後の浦添市発展の精神的礎石にしていくことは大変重要であります。ご存知のように、かつて浦添は古琉球の時代の政治、経済、文化の中心地であったと言われております。この歴史的遺産は、今日でも市民の精神的よりどころであり、「都市づくり」のなかにもそれが生かされてきました。よって、市民の歴史、文化に対する関心も大きいものがあります。

しかし、本県は先の大戦において国内で唯一の地上戦を経験した激戦地であり、多くの尊い人命と共に行政文書・文化財等を含む多くの貴重な遺産が焼失破壊されてしまい、残っているものは少ないと言われています。このため、市民に親しみやすく且つ学問的水準をも踏まえた歴史研究・調査報告となると、その要求を満たす資料も限られており、歴史編纂事業は困難な状況下にあります。

そのような中で私ども浦添市は、「琉球王国評定所文書」の発刊事業を発足させ、今年度から昭和六六年度までの五年計画で全一二巻を編集発刊していくことにいたしました。この度、第一巻目を上梓することができまことは誠に慶びにたえません。

評定所文書は、一六二三年から一八七九年にかけて首里王府の最高機関である評定所で記録作成されたもので、琉球王国の内実や徳川幕府、薩摩または諸外国（異国）と琉球との生々しい交流の様子を知ることができます。この史料は、市民はもとより県民共有の文化遺産であり、多くの方々が等しくその恩恵に浴されることを願うものであります。そして、いろいろな方面でひとりでも多くの方に活用していただけることを念願致しております。

本市の文化事業の一環として、「第一級の沖繩研究資料」である評定所文書の編集刊行事業を開始いたしました。本巻を編集刊行するにあたり、ご理解とご協力を賜りました東京大学法学部法制史資料室、国立公文書館、警察庁の各位に対し厚くお礼を申し上げます。さらに、公私ご多忙の中、編集委員をお引受下さり、編集発刊に御尽力をくださいました島尻勝太郎先生はじめ各編集委員の皆様に対しまして、衷心より感謝の意を捧げます。ひきつづき第二巻以下の編集発刊事業に努力を続けていく所存ですので、今後のご協力とご尽力を重ねてお願い申し上げます。発刊のご挨拶といたします。

昭和六三年三月

発刊のことば

浦添市教育委員会教育長 西 原 正 次

浦添市教育委員会では、昭和六十二年度より「琉球王国評定所文書」の刊行事業を開始いたしました。以後昭和十六年度までに全十二巻の刊行を予定しております。

評定所文書は、今まで琉球王国の近世史にとって重要な文書であるという高い評価を得ながらも、断片的にしか翻刻出版されてきませんでした。そのなかで現在確認されている評定所関係文書を、「琉球王国評定所文書」という形で出版することは、大変意義深いものがあります。

「琉球王国評定所文書」とは、近世琉球王府時代の歴史を解明する為の一級の文献資料です。目録によると、実際には二〇七四件にも及ぶものです。しかし、廃藩置県以後、明治政府によって引き揚げられて、公開される事無く内務省の倉庫の中に保管され、不幸なことに関東大震災の時にその殆んどが焼けてしまったと言われてきました。

しかし、東京大学法学部法制史資料室に「琉球評定所記録」として一九七件が筆写の形で残っており、また、昭和六一年には我部政男氏等により警察庁から原本もしくはより原本にちかいと思われる二十一件の評定所関係文書が発見され、現在は国立公文書館に移管されています。現存する文書は、東京大学法制史資料室のものに国立公文書館のものを加えて二二〇件弱という全体の十パーセントにもみただぬほどの量にしか当たりませんが、それでもその内容は豊富で、特に近世末の異国船に対する琉球王国の対応や、対中国関係の要となる冠船・進貢船への対応などが多く、

日本国内において独自の位置を占める沖縄の歴史・文化の解明に重要な第一級資料であり、その刊行事業について各分野から多大な関心が寄せられています。

一方、浦添市は「うらおそい」の言葉にも示されるように、歴史的には、沖縄のグスクの時代・大交易の時代から沖縄本島の政治の拠点として、中国とも貿易を行ってきた地域です。その歴史的・文化的伝統を背景に二十一世紀に向けて「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」を目標としています。そのうち教育と文化事業の一環として「琉球王国評定所文書」刊行事業を実施します。この文化事業が浦添市民の誇りと自信となり、教育・文化の都市作りに役立つしていく事を目指しています。と同時に、本事業が沖縄近世史の研究の発展にいささかなりとも貢献することになれば、これに過ぎる喜びはありません。本事業の遂行にあたっては新たな史料発掘作業を始めとして幾多の困難が予想されますが、各位の従前にまさるご理解とご協力とによって、その完遂を期したいと決意しています。本年度は「琉球王国評定所文書」第一巻（目録番号三二号〜一三三七号迄の十文書）を発刊します。内容としては、東京大学法学部法制史資料室所蔵の琉球評定所記録（旧琉球藩評定所書類）の中から旧琉球藩評定所書類目録の番号に従って収録しました。沖縄歴史の解明の上で重要な史料集になるものと確信しております。多くの市民をはじめ研究者の間で広く活用されることを願っています。

最後に、本事業のために貴重な資料の提供ならびに刊行について御快諾下さいました東京大学法学部法制史資料室並びに国立公文書館の関係各位、編集発刊にご尽力下さいました編集委員各位、また、史料の筆耕・解読にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げます、発刊の言葉と致します。

昭和六十三年三月吉日